



白鳥小学校

子どもたちの健康で安全な学校生活を守りつつ、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、充実した教育活動を進められるよう、日々工夫しています。

作品展

芸術の秋、学年ごとにテーマを決めて、工作や絵画の制作に取り組みました。その成果を披露する作品展を開催することができました。新型コロナウイルス感染症予防のため、会場が密にならないように、学年ごとに鑑賞会も行いました。



鑑賞の時間です。みんな、興味深そうに見入っていました。



木材を切ったり、つなげたりして完成させた力作です。



作品と一体化できる、体感型のオブジェです。

持久走記録会

1月からの体育の授業で、持久力向上を目指して練習してきました。当日は曇り空のうす寒い天気でしたが、みんな力を出し切り走り抜きました。



1年生は初めての持久走記録会。みんなほっぺたを真っ赤にしなが、一生懸命練習してきました。



頑張る仲間を応援する姿が素敵でした。



順位カードを渡すなどの、運営のお手伝いもしっかりとできました。

児童会企画〇×クイズ

児童会の運営委員の児童による、全校児童参加の企画、「〇×クイズ」です。新型コロナウイルス感染症予防のため、運動場で行いました。通学団ごとに楽しみました。



運営委員の司会進行で進められました。

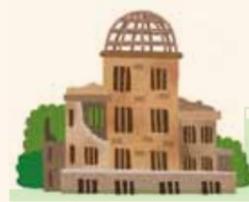


通学団ごとに〇か×かを相談し、みんなで移動します。位置についたら、団長さんは通学団番号を掲げます。それらを見て係が正解数を集計します。

上手に役割分担ができていました。



下級生は団長さんに一生懸命ついていき、みんなで運動場を右へ左へ走り回りました。



広島研修



広島は語る

弥富中学校 大角 琉斗

【戦争の反対と平和の主張】

平和記念公園を歩いていると、今の日本では考えられないような光景がいくつも目に映った。原爆ドームとなった建物は、元々、広島の産業を広める場として栄えていた場所である。

原爆ドームは、1945年8月6日の原爆投下によって被爆したものの、鉄骨などが残った状態であり、同じように被爆した周辺の建物の中では、頑丈なものであったようである。私がこの事実を知った時に考えたことは、それほど頑丈な建物でさえボロボロにさせてしまうほど威力のある原爆の被害を受け、人間はどのようになってしまったのだろうかということだ。ボランティアガイドさんの話によると、皮膚がただれ、体は大やけどを負い、近くに川があったため、水を求めて飛び込み、亡くなってしまった人々も少なくなかったそうだ。原爆は、今考えても恐ろしいものなのに、当時の人々が抱える恐怖はどれほど大きなものだったのだろう。原爆ドームは、原爆や戦争の恐ろしさを物語っていると思った。そして、この原爆ドームが、次の世代、そのまた次の世代にも、戦時の悲惨な出来事を語り続け、平和の象徴として輝き続けることを願っている。



【資料館での記憶】

平和記念公園にある資料館では、平和について深く考えさせられるような、当時の広島の様子や被爆者のむごい姿が鮮明に記録されていた。被爆した人々の体には、ケロイドという後遺症が残っていた。衣服は原型をとどめていないものもあって、原爆の威力の強さを物語っていた。原爆ドームの見学よりもさらに現実的な恐怖を間近で感じることができた。当たり前前の日常は、平和の上に成り立っているということ、この資料館を訪れた人々は実感することができる。

【広島から受け継いだもの】

この広島の平和学習を通して得たものが二つある。一つ目は、平和への意識である。これまで平和について真剣に考えたことはあまりなかった。なぜなら、平和は常に自分の周りにあり、身に染みついていた、そのありがたさに気付かなかったからだ。当時の人々は、まさかあの日、自分たちの日常がひっくり返るだなんて思わなかったかもしれない。私は、これから一日一日、小さな幸せをかみしめながら生きていきたいと思う。二つ目は、当たり前前の日常を未来につなげていこうという心である。いつ当たり前前が壊れるかはわからない。一日でも今日のような当たり前前の日々が続くように、自分に何ができるかを必死に考え、少しでも平和な世の中に貢献していきたい。